

<マニュアル訂正連絡票>

ASP システムメッセージ集 V28

[J2K0-5800-01]

2022年3月31日発行

修正箇所(章節項): S5629の注意 「発信元小区分がSYS, FTPまたはRMNの場合」の補足情報

旧記事

分類1	分類2	詳細1	詳細2	意味	処置
XLOGIN	MACRO	RP065	—	誤ったプロフィールで接続を行ったため.	正しいプロフィールで接続を行う.

新記事

分類1	分類2	詳細1	詳細2	意味	処置
XLOGIN	MACRO	RP065 RP153	—	誤ったプロフィールで接続を行ったため.	正しいプロフィールで接続を行う.

2020年12月22日発行

修正箇所(章節項): 第2章 送信メッセージ S5057 補足情報一覧 エラーコード1049

旧記事

エラーコード	詳細情報1	詳細情報2	詳細情報3	意味	利用者処置
1049	CIFS エラーコード	Windows ユーザ名	ドメイン名	NAS 装置へのユーザ認証で失敗した.	Windows ユーザ名, パスワード, ドメイン名が適切であるか確認する. 詳細情報やログファイルの出力結果を元に調査する.

新記事

エラーコード	詳細情報1	詳細情報2	詳細情報3	意味	利用者処置
1049	CIFS エラーコード	Windows ユーザ名	ドメイン名	NAS 装置へのユーザ認証で失敗した.	・Windows ユーザ名, パスワード, ドメイン名が適切であるか確認する. ・NAS 装置とドメインサーバの時刻が一致しているか確認する. ・詳細情報やログファイルの出力結果を元に調査する. ・同時に” S5057” の補足

					情報:1048 が表示されている場合は、その利用者処置に従う。
--	--	--	--	--	---------------------------------

2018年6月26日発行

修正箇所(章節項):「本書の読み方」の「第1部のための基本知識及び約束事項」の「3. 本書での記述形式」

旧記事

(2)送信メッセージの場合

1) メッセージの形式

Snnnn α メッセージ本文 (補足情報) <発信元>

2) 本書の記述形式

nnnn	メッセージ本文(英文)
	メッセージ本文(和文)

補足情報:

発信元:

メッセージのレベル:

α

原因:

利用者処置:

システム処置:

注意:

- ・ワークステーション表示……あり, なし
- ・ロギング先……SYSLOG, JOBLOG

備考 .

- ・“ワークステーション表示……あり”と記されたメッセージは、ワークステーションメッセージキュー及び、ジョブメッセージキューへの送信が行われます。
- ・“ワークステーション表示(対話型応答)……あり”と記されたメッセージについては、メッセージを発信したジョブのジョブ共通変数 '@SPRMSG' の値が @NO の場合に、Rレベルと同様に応答表示されます。それ以外の場合はワークステーション表示されません。応答には次の種類がありますが、メッセージによっては一部のみ選択可能になっています。

再試行

:再度メッセージを発信する原因となった処理を実行します。

続行

:メッセージを発信する原因となった事象にしたがって実行します。

打切り

:CANPGM コマンドが投入されたのと同様に、メッセージを発信したプログラムをキャンセルします。

なお、応答表示された場合に、補足情報に次の情報が追加されることがあります。

[(PGM=プログラム名 [ISN=ISN 番号 [CISN=コピー内 ISN 番号]])]

(2)送信メッセージの場合

1) メッセージの形式

Snnnn	α	メッセージ本文	(補足情報)	〈発信元〉
-------	---	---------	--------	-------

2) 本書の記述形式

nnnn	メッセージ本文(英文)
	メッセージ本文(和文)

補足情報:

発信元:

メッセージのレベル:

α

原因:

利用者処置:

システム処置:

注意:

- ・ワークステーション表示……あり, なし
- ・ロギング先……SYSLOG, JOBLOG

備考 .

- ・“ワークステーション表示……あり”と記されたメッセージは, ワークステーションメッセージキュー及び, ジョブメッセージキューへの送信が行われます.
- ・“ワークステーション表示(対話型応答)……あり”と記されたメッセージについては, **通知レベルまたは要求レベルのメッセージとしてワークステーションメッセージキュー及び, ジョブメッセージキューへの送信が行われます.** なお, **要求レベルのメッセージの場合, メッセージを発信したジョブのジョブ共通変数 '@SPRMSG' に '@YES' を指定するとメッセージは送信されません.**

応答には次の種類がありますが, メッセージによっては一部のみ選択可能になっています.

再試行

:再度メッセージを発信する原因となった処理を実行します.

続行

:メッセージを発信する原因となった事象にしたがって実行します.

打切り

:CANPGM コマンドが投入されたのと同様に, メッセージを発信したプログラムをキャンセルします.

なお, 応答表示された場合に, 補足情報に次の情報が追加されることがあります.

[(PGM=プログラム名 [ISN=ISN 番号 [CISN=コピー内 ISN 番号]])]

2017年6月23日発行

修正箇所(章節項): 「2.28 S7900~S7999 のメッセージ」の「7914」 「注意:」にある表のコード RDA0606 行

コード	メッセージ	意味	利用者処置
RDA0606	ネットワークで異常が発生した #text# FATAL ERROR OCCURS IN NETWORK #text#	ネットワーク環境に異常が発生したため, 処理を中断した.	ネットワーク環境の見直しを行う.

新 記 事

コード	メッセージ	意味	利用者処置
RDA0606	ネットワークで異常が発生した #text# FATAL ERROR OCCURS IN NETWORK #text#	ネットワーク環境に異常が発生したため、処理を中断した.	ネットワーク環境の見直しを行う。 補足情報の原因と対処を以下に示す。 補足情報： “API:ACCEPT, MDL:RPCSOCKACC, LOCNO:0060, ERRNO:00000009” 原因： UXF ソケット数が不足したため、処理を中断した。 対処： NSS 記述の UXF ソケット数を拡張する。 UXF ソケット数見積り： UXF ソケット数=1+接続相手数

2017年4月26日発行

修正箇所（章節項）： 「2.10 S5900～S5999」の「S5905」 詳細情報部

旧 記 事

～（中略）～

発信元が SC | SNS | SPLNET クライアント名の場合

～（以下、略）～

新 記 事

～（中略）～

発信元が SC | **SNC** | SPLNET クライアント名の場合

～（以下、略）～

修正箇所（章節項）： 「2.27 S7800～S7899 のメッセージ」の「S7876」利用者処置部

旧 記 事

利用者処置： 下表を参照して対処する。

原因コード	意味／原因	利用者処置
～（中略）～		
9900	プログラムが誤動作した.	SE に連絡する.

新 記 事

利用者処置： 下表を参照して対処する。

原因コード	意味／原因	利用者処置
～（中略）～		
9900	自動ジョブサービスが動作できない環境である、又はプログラムが誤動作した.	システム共通変数@TMSCODE の設定値を確認し、@EUC が設定されている場合は@SJIS に変更する。該当しない場合は、SE に連絡する.

2017年2月28日発行

修正箇所(章節項): 「1.22 S2500~S2599のメッセージ」の「2502」 「原因」部および「利用者処置」部

旧記事

原因:

物理ファイルのレコード数が最大レコード数を超えたため、レコードを追加できない。

利用者処置:

物理ファイルに格納されている不要なレコードを削除し、CNDPF コマンドで削除レコードの領域を解放して、物理ファイルを圧縮する。

新記事

原因:

物理ファイルのレコード数が最大レコード数を超えたため、レコードを追加できない。

論理ファイルが活性化されているマルチボリューム物理ファイルに対して、動的追加が発生し構成物理ファイル数が9個以上となるため、レコードを追加できない。

利用者処置:

物理ファイルに格納されている不要なレコードを削除し、CNDPF コマンドで削除レコードの領域を解放して、物理ファイルを圧縮する。

マルチボリューム物理ファイルに格納されている不要なレコードを削除し、CNDPF コマンドで構成物理ファイルを圧縮する。または、マルチボリューム物理ファイルに関連する論理ファイルを非活性化し、動的追加が発生するレコード追加を実施する。

修正箇所(章節項): 「2.24 S7500~S7599のメッセージ」の「7502」 「原因」部および「利用者処置」部

旧記事

原因:

物理ファイルのレコード数が最大レコード数を超えたため、レコードを追加できない。

SQL 文実行時に参照するインデックスの最適化情報が最新状態でないため、検索結果を格納する結果ファイルのレコード数が最大数を超えた。

利用者処置:

物理ファイルに格納されている不要なレコードを削除し、CNDPF コマンドで削除レコードの領域を解放して物理ファイルを圧縮する。

SETSQLI コマンドを実行し、インデックスの最適化情報を最新状態に更新して再度実行する。

新記事

原因:

物理ファイルのレコード数が最大レコード数を超えたため、レコードを追加できない。

論理ファイルが活性化されているマルチボリューム物理ファイルに対して、動的追加が発生し構成物理ファイル数が9個以上となるため、レコードを追加できない。

SQL 文実行時に参照するインデックスの最適化情報が最新状態でないため、検索結果を格納する結果ファイルのレコード数が最大数を超えた。

利用者処置:

物理ファイルに格納されている不要なレコードを削除し、CNDPF コマンドで削除レコードの領域を解放して物理ファイルを圧縮する。

マルチボリューム物理ファイルに格納されている不要なレコードを削除し、CNDPF コマンドで構成物理ファイルを圧縮する。
 または、マルチボリューム物理ファイルに関連する論理ファイルを非活性化し、動的追加が発生するレコード追加を実施する。

SETSQLI コマンドを実行し、インデックスの最適化情報を最新状態に更新して再度実行する。

2016年12月27日発行

修正箇所 (章節項) : 第2章 送信メッセージ 2.27 S7800~S7899 のメッセージ 7884 WWW サーバでエラーが発生した 補足情報一覧

旧記事

補足情報一覧

エラーコード	詳細情報 1	詳細情報 2	詳細情報 3	意味	処置
6999	SSL 関数名	SSL 関数エラーコード	SSL 関数エラー詳細	以下のいずれかのエラーを検出した。 1) SSL 関数名が SSL_Accept2 の場合、SSL 通信用のポートに対して、クライアントから SSL 以外で接続しようとした。 2) 上記以外の場合、SSL 関数で予期せぬエラーを検出した。	SSL 以外で接続するクライアントがないか、運用方法を確認する。 または、Web ブラウザに返却する HTML 内容において、SSL 通信用のポートに対して HTTP でアクセスするハイパーリンク (http://) を記述していないか確認する。 または、Webjet などの Java アプレットを使用する Web アプリケーションを使用している場合は、クライアントに JRE がインストール済みであることを確認する。 上記の処置を施しても本現象が発生する場合、以下の資料を採取して SE に連絡する。 ・システムログ ・WWW サーバ/EX のエラーログ ・UXF ソケットログ ・ネットワークセキュリティのログ

新記事

補足情報一覧

エラーコード	詳細情報 1	詳細情報 2	詳細情報 3	意味	処置
6044	—	—	—	以下のいずれかのエラーを検出した。 1) システムに移入しているネットワークセキュリティ機構が、新しい暗号化方法に対応していない。 2) 暗号化方法の設定値に誤りがある。	最新のネットワークセキュリティ機構をシステムに移入していない場合、移入する。 WWW サーバ/EX 環境定義ファイルの SSLCipherSuite 命令の設定値 (書式および暗号化方法値) に誤りがある場合、修正する。
6999	SSL 関数名	SSL 関数エラーコード	SSL 関数エラー詳細	以下のいずれかのエラーを検出した。 1) SSL 関数名が SSL_Accept2 の	左記のそれぞれの場合の処置を以下に示す。 1) SSL 以外で接続するクライアント

			<p>場合、SSL 通信用のポートに対して、クライアントから SSL 以外で接続しようとした。</p> <p>2) SSL 関数名が SSL_Socket で、かつ、SSL 関数エラーコードが 0010002C の場合、システムに移入しているネットワークセキュリティ機構が新しい SSL プロトコルのバージョンに対応していない。</p> <p>3) 上記以外の場合、SSL 関数で予期せぬエラーを検出した。</p>	<p>がないか、運用方法を確認する。または、Web ブラウザに返却する HTML 内容において、SSL 通信用のポートに対して HTTP でアクセスするハイパーリンク (http://) を記述していないか確認する。</p> <p>または、Webjet などの Java アプレットを使用する Web アプリケーションを使用している場合は、クライアントに JRE がインストール済みである事を確認する。</p> <p>2) 最新のネットワークセキュリティ機構をシステムに移入する。</p> <p>3) 以下の資料を採取して SE に連絡する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・システムログ ・WWW サーバ/EX のエラーログ ・UXF ソケットログ ・ネットワークセキュリティのログ
--	--	--	---	--

2016 年 4 月 28 日発行

修正箇所 (章節項) : S7894

旧記事

7894	<p>IO ERROR ACCESS TO NETWORK DRIVER</p> <p>ネットワークドライバに対する IO 発行中にエラーが発生した</p>
------	--

補足情報:

以下のうちいずれか 1 つが表示される。

- ・ 詳細情報 1, 詳細情報 2, CSW, センス情報
- ・ 補足情報[, 結果メッセージ番号]

発信元:

以下のうちいずれか 1 つが表示される。

- ・ SC | LIN | リンク名
- ・ SC | NSS | SUBNET

メッセージのレベル:

B

原因:

ネットワークドライバに対して発行した IO がエラーで復帰した。

利用者処置:

SE に連絡する。

発信元が SC | NSS | SUBNET の場合

補足情報と結果メッセージ番号を以下に示す。

補足情報	メッセージ番号	意味	処置
SUBNET OVERFLOW	—	システム共通変数の'サブネットマスク定義数'以上のネットマスク定義を持つ NSS 記述を起動した。	システム共通変数の'サブネットマスク定義数'を NSS 記述のネットマスク定義数より大きく設定し、NSS を再起動してください。

FILE	SXXXX	作業ファイル作成に失敗した.	/tmp ディレクトリが存在するか、または/tmp ディレクトリに空き (10KB 以上) が在るか確認して下さい。上記以外の場合は、本メッセージを控えて SE に連絡して下さい。
CALL	S1020	NSS を起動するには TLIBEX 環境が必要であるが、TLIBEX 環境になっていない。	システム共通変数の多階層ルートライブラリの設定を TLIBEX にする。
上記以外	その他	その他エラー	本メッセージを控えて SE に連絡して下さい。

システム処置:

処理を続行する。

注意:

- ・ワークステーション表示……あり
- ・ロギング先……SYSLOG

新 記 事

7894	IO ERROR ACCESS TO NETWORK DRIVER ネットワークドライバに対する IO 発行中にエラーが発生した
------	---

補足情報:

以下のうちいずれか 1 つが表示される。

- ・ 詳細情報 1, 詳細情報 2, CSW, センス情報
- ・ 補足情報[, 結果メッセージ番号]

発信元:

以下のうちいずれか 1 つが表示される。

- ・ SC | LIN | リンク名
- ・ SC | NSS | SUBNET

メッセージのレベル:

B

原因:

ネットワークドライバに対して発行した IO がエラーで復帰した。

利用者処置:

SE に連絡する。

発信元が SC | NSS | SUBNET の場合

補足情報と結果メッセージ番号を以下に示す。

補足情報	メッセージ番号	意味	処置
SUBNET OVERFLOW	—	システム共通変数の'サブネットマスク定義数'以上のネットマスク定義を持つ NSS 記述を起動した。	システム共通変数の'サブネットマスク定義数'を NSS 記述のネットマスク定義数より大きく設定し、NSS を再起動してください。
FILE	SXXXX	作業ファイル作成に失敗した。	/tmp ディレクトリが存在するか、または/tmp ディレクトリに空き (10KB 以上) が在るか確認して下

			さい。上記以外の場合は、本メッセージを控えて SE に連絡して下さい。
CALL	S1020	NSS を起動するには TLIBEX 環境が必要であるが、TLIBEX 環境になっていない。	システム共通変数の多階層ルートライブラリの設定を@TLIBEXにする。 なお、TLIBEX 環境への移行に関する詳細は、『システム移行手引書』の「多階層ライブラリ運用環境の設定」を参照されたい。
上記以外	その他	その他エラー	本メッセージを控えて SE に連絡して下さい。

システム処置:

処理を続行する。

注意:

- ・ワークステーション表示……あり
- ・ロギング先……SYSLOG

修正箇所 (章節項): 7626 FAILED TO MOUNT LIBRARY ライブラリのマウントに失敗した

旧記事

詳細コード	原因	利用者処置
00A1	マウント元パスのディレクトリが存在しない。	DSPMNTI コマンドで補足情報に示されるライブラリのマウント指定情報を調査し、CRTTDIR コマンドでマウント元ディレクトリを作成する。

新記事

詳細コード	原因	利用者処置
00A1	マウント元パスのディレクトリが存在しない。	DSPMNTI コマンドで補足情報に示されるライブラリのマウント指定情報を調査し、CRTTDIR コマンドでマウント元ディレクトリを作成する。
	多重マウントで下位ディレクトリから先にマウント情報定義を追加した。	DSPMNTI コマンドで補足情報に示されるライブラリのマウント指定情報を調査し、DLTMNTI コマンドでそのライブラリのマウント情報の削除を行う。その後、多重マウントを行う場合は、上位ディレクトリから順番にADDMNTI コマンドでマウント定義情報を追加する。

2015年8月31日発行

修正箇所(章節項): S6569

旧記事

注意:

原因コードと原因および利用者処置(続く)

原因コード	原因	利用者処置
0092	ブロックの表示記号が正しくない。	EDTFILE コマンドでファイルの内容を修復する。
0208	ライブラリが存在しない。又は処理対象外のライブラリである。	ライブラリ名の指定に誤りがないか調査する。

新記事

注意:

原因コードと原因および利用者処置(続く)

原因コード	原因	利用者処置
0092	ブロックの表示記号が正しくない。	EDTFILE コマンドでファイルの内容を修復する。
0127	システムプログラムの動作で異常が発生した。	詳細情報のマクロエラーコードを参照する。 0035 ジョブと SCP の実記憶利用状況を調べる。 その他 SE に連絡する。
0208	ライブラリが存在しない。又は処理対象外のライブラリである。	ライブラリ名の指定に誤りがないか調査する。

2015年4月21日発行

修正箇所(章節項): 1.15 S1500~S1599 のメッセージ

旧記事

1531	REMOTE WINDOW OR DISPLAY UNIT OPEN ERROR リモートウィンドウ又はディスプレイ装置でオープンエラーが発生した
------	--

補足情報:

以下のうちのいずれか一つが表示される。

- ・ 通知コード
- ・ F: 状態キー

メッセージのレベル:

L

原因:

リモートウィンドウ又はディスプレイ装置で、オープンエラーが発生し、処理を続行できない。

利用者処置:

通知コード、状態キーにより原因を調査し、再度実行する。

システム処置:

処理を打ち切る。

注意:

通知コードは、スタンダード会話サービスの通知コードである。通知コードについては“[B.1 会話サービス通知コード](#)”を参照されたい。状態キーは“JIS COBOL E 使用手引書”を参照されたい。

1532	REMOTE WINDOW ACCESS ERROR リモートウィンドウでアクセスエラーが発生した
------	--

補足情報:

通知コード

メッセージのレベル:

L

原因:

リモートウィンドウでアクセスエラーが発生し、処理を続行できない。

利用者処置:

通知コードにより原因を調査し、再度実行する。

システム処置:

処理を打ち切る。

注意:

通知コードは、スタンダード会話サービスの通知コードである。通知コードについては“[B.1 会話サービス通知コード](#)”を参照されたい。

1534	REMOTE WINDOW OPEN ERROR リモートウィンドウでオープンエラーが発生した
------	--

補足情報:

通知コード

メッセージのレベル:

L

原因:

リモートウィンドウでオープンエラーが発生し、処理が続行できない。

利用者処置:

通知コードにより原因を調査し、再度実行する。

システム処置:

処置を打ち切る。

注意:

- ・通知コードは、スタンダード会話サービスの通知コードである。通知コードについては“[B.1 会話サービス通知コード](#)”を参照されたい。
- ・端末に JEF 拡張漢字サポートがインストールされていないと、出力される場合がある。

新 記 事

1531	REMOTE WINDOW OR DISPLAY UNIT OPEN ERROR リモートウィンドウ又はディスプレイ装置でオープンエラーが発生した
------	--

補足情報:

以下のうちのいずれか一つが表示される。

- ・通知コード
- ・F: 状態キー

メッセージのレベル:

L

原因:

リモートウィンドウ又はディスプレイ装置で、オープンエラーが発生し、処理を続行できない。

利用者処置:

通知コード、状態キーにより原因を調査し、再度実行する。

システム処置:

処理を打ち切る。

注意:

通知コードは、スタンダード会話サービスの通知コードである。通知コードについては“[B.1 会話サービス通知コード](#)”を参照されたい。なお、通知コードが 81~FF(16 進表記)の場合は、通知コードから 80(16 進表記)を減算した値(例:C8 → 48)で参照する。

状態キーは“JIS COBOL E 使用手引書”を参照されたい。

1532	REMOTE WINDOW ACCESS ERROR リモートウィンドウでアクセスエラーが発生した
------	--

補足情報:

通知コード

メッセージのレベル:

L

原因:

リモートウィンドウでアクセスエラーが発生し、処理を続行できない。

利用者処置:

通知コードにより原因を調査し、再度実行する。

システム処置:

処理を打ち切る。

注意:

通知コードは、スタンダード会話サービスの通知コードである。通知コードについては“[B.1 会話サービス通知コード](#)”を参照されたい。なお、通知コードが 81~FF(16 進表記)の場合は、通知コードから 80(16 進表記)を減算した値(例:C8 → 48)で参照する。

1534	REMOTE WINDOW OPEN ERROR リモートウィンドウでオープンエラーが発生した
------	--

補足情報:

通知コード

メッセージのレベル:

L

原因:

リモートウィンドウでオープンエラーが発生し、処理が続行できない。

利用者処置:

通知コードにより原因を調査し、再度実行する。

システム処置:

処置を打ち切る。

注意:

- ・通知コードは、スタンダード会話サービスの通知コードである。通知コードについては“[B.1 会話サービス通知コード](#)”を参照されたい。なお、通知コードが 81~FF(16 進表記)の場合は、通知コードから 80(16 進表記)を減算した値(例:C8 → 48)で参照する。
- ・端末に JEF 拡張漢字サポートがインストールされていないと、出力される場合がある。

旧記事

5546	OPERATOR INTERVENTION REQUIRED 入出力装置が介入要求状態である
------	---

補足情報:

[保守情報]

発信元:

以下のうちのいずれか一つが表示される.

- ・ SC | DEV | 装置名
- ・ SC | PRT | 装置名. プロフィール名

メッセージのレベル:

B

原因:

装置名で示される装置が, 介入要求状態である.

利用者処置:

当該装置の状態を調査し, レディ状態にして, 処理をやり直す. レディ状態にならない場合は CE に連絡する.

システム処置:

処理を打ち切る.

注意:

- ・ 保守情報は, CE のための情報である.
- ・ ワークステーション表示……………あり
- ・ ロギング先……………SYSLOG

新記事

5546	OPERATOR INTERVENTION REQUIRED 入出力装置が介入要求状態である
------	---

補足情報:

保守情報

発信元:

以下のうちのいずれか一つが表示される.

- ・ SC | DEV | 装置名
- ・ SC | PRT | 装置名. プロフィール名

メッセージのレベル:

B

原因:

装置名で示される装置が, 介入要求状態である.

利用者処置:

- ・ 当該装置の状態を調査し, レディ状態にして, 処理をやり直す. レディ状態にならない場合は CE に連絡する.
- ・ LTO 装置の場合, LOADMT コマンドの実行により媒体をロード状態にして, 処理をやり直す. ロード状態にならない場合は CE に連絡する.

システム処置:

処理を打ち切る.

注意:

- ・ 保守情報は, CE のための情報である.
- ・ ワークステーション表示……………あり

2014年10月22日発行

修正箇所(章節項): S0295の原因, 利用者処置

旧記事

原因	利用者処置
/tmp/socket ファイルが削除された状態で CHGPFSPW コマンドを実行した.	NSS を再起動し, PC ファイルサーバの起動を行った後で, 再度 CHGPFSPW コマンドを実行する.
上記以外はシステムの障害である.	ABDUMP 情報を採取し, SE に連絡する. なお, ABDUMP 情報の採取方法については, “付録 E ABDUMP 情報の採取方法” を参照されたい.

新記事

原因	利用者処置
/tmp/socket ファイルが削除された状態で CHGPFSPW コマンドを実行した.	NSS を再起動し, PC ファイルサーバの起動を行った後で, 再度 CHGPFSPW コマンドを実行する.
ユーザ ID またはグループ ID が設定されていないプロフィールのジョブで, SNDFTPC コマンドまたは RCVFTPC コマンドを実行した.	EDTUID コマンドで, プロフィールにユーザ ID とグループ ID を設定し, 再度, CNTFTPC コマンドを実行する. その後, SNDFTPC コマンドまたは RCVFTPC コマンドを実行する.
上記以外はシステムの障害である.	ABDUMP 情報を採取し, SE に連絡する. なお, ABDUMP 情報の採取方法については, “付録 E ABDUMP 情報の採取方法” を参照されたい.

2014年4月4日発行

修正箇所(章節項): S5057 (NASバックアップ機能でエラーが発生した)

旧記事

補足情報一覧(続く)

エラーコード	詳細情報 1	詳細情報 2	詳細情報 3	意味	利用者処置
1049	CIFS エラーコード	Windows ユーザ名	ドメイン名	NAS 装置へのユーザ認証で失敗した.	Windows ユーザ名, パスワード, ドメイン名が適切であるか確認する. 詳細情報やログファイルの出力結果を元に調査する.

新記事

補足情報一覧(続く)

エラー	詳細情報 1	詳細情報 2	詳細情報 3	意味	利用者処置
-----	--------	--------	--------	----	-------

コード					
1049	CIFS エラーコード	Windows ユーザ名	ドメイン名	NAS 装置へのユーザ認証で失敗した.	<ul style="list-style-type: none"> ・ Windows ユーザ名, パスワード, ドメイン名が適切であるか確認する. ・ NAS 装置とドメインサーバの時刻が一致しているか確認する. ・ 詳細情報やログファイルの出力結果を元に調査する.

修正箇所 (章節項) : S5310 の発信元と注意

旧記事

発信元:

以下のいずれか一つが表示される.

- ・ SC | SYS | 制御機能名
- ・ SC | WKT | ジョブ名. プロフィール名
- ・ SC | NMS | BIND

(途中を省略)

注意:

- ・ ワークステーション表示……………あり
- ・ ロギング先……………SYSLOG

詳細情報を以下に示す.

SC | SYS | 制御機能名の場合

制御機能名	詳細情報	意味
ACMRMSVR	—	ACM リモートサーバが異常終了した.
CFC3EM	モジュール識別子, 対応コード [, 結果メッセージ番号] [, 補足情報]	CFC III エミュレータ実行中にエラーが発生した.
DHCP	DHCP3SVR	DHCP サーバが異常終了した.
DNS	エラー詳細コード	インターネットツインネームサービスの動作中に異常が発生した.
EMLSV	補足情報	メールサーバが異常終了した.
MPWAGENT	—	Systemwalker CM エージェントが異常終了した.

(途中を省略)

制御機能名が PFS または NMB の場合

補足情報	意味	利用者処置
SIGNAL "シグナル番号" IN PID "プロセス ID"	PC ファイルサーバが, 無効なシグナル割り込みを受信した.	プロダクト保守情報の退避コマンド (SAVPRMI PRODUCT- 'PFS') で調査用資料を採取し, SE に連絡する.

PFS CONFIGURATION FILE ERROR	PC ファイルサーバの環境定義ファイルでパラメータ間の矛盾を検出した。	PC ファイルサーバの環境定義ファイルの内容を点検する。 例： wins support=true かつ、wins server=server と設定している。
------------------------------	-------------------------------------	--

新 記 事

発信元:

以下のいずれか一つが表示される。

- ・ SC | SYS | 制御機能名
- ・ SC | WKT | ジョブ名. プロフィール名
- ・ SC | NMS | BIND
- ・ **SC | SYS | FTPC**

(途中を省略)

注意:

- ・ ワークステーション表示……………あり
- ・ ログ先……………SYSLOG

詳細情報を以下に示す。

SC | SYS | 制御機能名の場合

制御機能名	詳細情報	意味
ACMRMSVR	—	ACM リモートサーバが異常終了した。
CFCM	モジュール識別子, 対応コード [, 結果メッセージ番号] [, 補足情報]	CFC III エミュレータ実行中にエラーが発生した。
DHCP	DHCPSVR	DHCP サーバが異常終了した。
DNS	エラー詳細コード	インターネットツインネームサービスの動作中に異常が発生した。
EMLSV	補足情報	メールサーバが異常終了した。
FTPC	結果メッセージ番号 [, 補足情報]	FTP クライアントが異常終了した。
MPWAGENT	—	Systemwalker CM エージェントが異常終了した。

(途中を省略)

制御機能名が PFS または NMB の場合

補足情報	意味	利用者処置
SIGNAL"シグナル番号" IN PID "プロセス ID"	PC ファイルサーバが、無効なシグナル割り込みを受信した。	プロダクト保守情報の退避コマンド (SAVPRMI PRODUCT- 'PFS') で調査用資料を採取し、SE に連絡する。
PFS CONFIGURATION FILE ERROR	PC ファイルサーバの環境定義ファイルでパラメータ間の矛盾を検出した。	PC ファイルサーバの環境定義ファイルの内容を点検する。 例： wins support=true かつ、wins server=server と設定している。

	夕間の矛盾を検出した。	る。
--	-------------	----

制御機能名が FTPC の場合の原因と利用者処置

結果メッセージ番号	原因	利用者処置
S3675	処理中に、サーバ側から FTP エラー応答を受信した。	LAN や相手システムの状態を確認する。 異常がなければ、CNTFTPC コマンドで再度ログインし、FTP クライアントのコマンドを投入する。

修正箇所 (章節項) : S5629 の注意

旧 記事

分類 1	分類 2	詳細 1	詳細 2	意味	処置
ACCEPT SCONN	MACRO WAIT ERR	P030B	E00A3 D00A3	サーバ機能を起動できないタイミングで起動した。 クライアント機能からの操作時、別のクライアント機能からの操作によるデータコネクションの接続処理中のため、データコネクションの接続に失敗した。	サーバ機能を数分 (10 分) 後、再実行する。 クライアント機能からの操作を再実行する。
ACCEPT SCGET SOPENA SOPENC	MACRO ERR DATA FTP	P0305	D5020	相手システムより、コネクションが強制切断された。	LAN や相手システムの状態を確認する。 異常がなければ再度接続する。
SCONN SWRITE SREAD SCCLOSE	CTL WAIT		D00A9 D50A9	RST/SYN を受信したためコネクションが切断された。	LAN や相手システムの状態を確認する。 異常がなければ再度接続する。
			D00AF	KEEP - ALIVE タイムアウトが発生し、制御コネクションが切断された。	LAN や相手システムの状態を確認する。 異常がなければ再度接続する。

(続く)

新 記事

分類 1	分類 2	詳細 1	詳細 2	意味	処置
ACCEPT SCONN	MACRO WAIT ERR	P030B	E00A3 D00A3	サーバ機能を起動できないタイミングで起動した。 クライアント機能からの操作時、別のクライアン	サーバ機能を数分 (10 分) 後、再実行する。 クライアント機能からの操作を再実行する。

				ト機能からの操作によるデータコネクションの接続処理中のため、データコネクションの接続に失敗した。	
ACCEPT SCGET SOPENA SOPENC SCONN SWRITE SREAD SCCLOSE	MACRO ERR DATA FTP CTL WAIT	P0000	—	サーバ側からデータコネクションを切断された。	LAN や相手システムの状態を確認する。 異常がなければ、CNTFTPC コマンドで再度ログイン後、FTP クライアントのコマンドを投入する。
		P0305	D5020	相手システムより、コネクションが強制切断された。	LAN や相手システムの状態を確認する。 異常がなければ再度接続する。
			D00A9 D50A9	RST/SYN を受信したためコネクションが切断された。	LAN や相手システムの状態を確認する。 異常がなければ再度接続する。
			D00AF	KEEP - ALIVE タイムアウトが発生し、制御コネクションが切断された。	LAN や相手システムの状態を確認する。 異常がなければ再度接続する。

(続く)

2013年8月22日発行

修正箇所(章節項): S7884 (WWW サーバでエラーが発生した)

旧記事

補足情報一覧(続く)

エラーコード	詳細情報 1	詳細情報 2	詳細情報 3	意味	処置
4817	プロセス ID	—	—	指定時間内にサブレット・コンテナが終了しなかったため、サブレット・コンテナプロセスの強制終了を試みた。	Container23StopTimer 命令の値を大きくする。

新記事

補足情報一覧(続く)

エラーコード	詳細情報 1	詳細情報 2	詳細情報 3	意味	処置
4817	プロセス ID	—	—	指定時間内にサブレット・コンテナが終了しなかったため、サブレット・コ	Container23StopTimer 命令の値を大きくする。

				<p>ンテナプロセスの強制終了を試みた.</p>	<p>この処置を施しても本現象が発生する場合、以下の資料を採取して SE に連絡する.</p> <ul style="list-style-type: none">・ COREDUMP ファイル (出力された場合)・ DSPTCPS コマンドの表示結果リスト <p>本現象発生直後に、以下のパラメタを指定して DSPTCPS コマンドを投入する.</p> <p>SOCKNUM=@YES ACTSOCK=@YES TCPCOUNT=@YES</p> <ul style="list-style-type: none">・ システムログ・ WWW サーバ/EX のエラーログ・ Web アプリケーション 2.3 の標準出力ログ・ Web アプリケーション 2.3 のサーバーレット・コンテナログ
--	--	--	--	--------------------------	--